

受験番号	氏名
------	----

令和4年度埼玉医科大学保健医療学部一般選抜試験（前期）看護学科2次試験  
**小論文**

注意事項

1. 試験時間は60分。
2. 問題は指示があるまで開かないこと。
3. 解答を書く前に、解答用紙にあるすべての受験番号・氏名の欄に記入すること。
4. 解答は解答用紙に書くこと。
5. 解答はすべて横書きで書くこと。
6. 下書きには問題用紙の余白を利用すること。
7. すべての配布物は終了時に回収する。
8. 質問がある場合は手を挙げて監督者に知らせること。

問1 次の文を読んで、本文をまとめたうえで、自分の考えを述べなさい。(250字以内)

子供の近視は世界的に増加しており、世界保健機関（WHO）は、2050年までに2人に1人が近視になると推計している。シンガポールでは政府が予防計画を策定するなど、子供の近視対策に取り組む国・地域は増えている。

屋外で太陽光を浴びると近視の抑制につながるとの研究結果がある。台湾では10年以上前から、1日2時間、屋外で過ごすよう小学生に推奨することで、視力の低い子供の割合を減らしている。理科の観察授業をできるだけ屋外で行うなどの工夫も凝らしているという。日本でも、子供の目に配慮して、授業計画を見直すことを検討してはどうだろうか。

文科省は今年度、全国でデジタル教科書の実証事業を行うという。教育効果などに加え、目への影響もしっかりと検証することが重要だ。学校では正しい姿勢を保ち、時間を決めて遠くを見るなどの対策を徹底せねばならない。

新型コロナウイルスの流行による外出自粛で、小中学生の近視が増えたと指摘する眼科医は少なくなっている。家庭でゲームやスマホを利用する頻度が高まり、目に負担がかかったためとみられる。関西圏を中心に広がる変異ウイルスは、子供への感染も心配されている。感染を避けるため、これまで以上に子供の在宅時間が長くなる可能性がある。ゲームやスマホの利用時間を決めるなど、家庭内で話し合うことが大切だ。

近視を治すことは難しいが、点眼薬やコンタクトレンズなどを用いて進行を抑制する治療法の研究が世界各国で進んでいる。デジタル時代の到来で、近視は新たな生活習慣病となる可能性がある。日本でも予防、治療法の開発と普及に力を入れるべきだ。

(読売新聞「社説」2021年4月21日付朝刊, 13(3). 一部改変)

問2 表1・2は、高齢者（65歳以上）の「転倒・転落」による救急搬送者数を示した結果です。表から読み取ったことを述べたうえで、自分の考えを述べなさい。数字を使う場合は桁数や小数点に関わらず、ひとまとまりの数字は1マスに記入してください。（200字以内）

表1 男女・年代別に見た高齢者の家庭内における「転倒・転落」による人口10万人当たりの救急搬送者数（平成28年）

	人口10万人当たりの救急搬送者数（人）	
	男性	女性
65－69歳	290.6	291.7
70－74歳	442.9	462.0
75－79歳	744.8	983.1
80－84歳	1,309.3	1,979.8
85－89歳	2,427.2	3,432.8
90歳－	4,698.2	5,271.8
総計	824.4	1,362.8

「出典：東京消防庁」

東京消防庁「救急搬送データ」を基に消費者庁で作成（一部改変）

表2 発生場所・事故要因別に見た高齢者の「転倒・転落」による救急搬送者数（平成28年）

家庭内			家庭外		
事故要因		搬送者数（人）	事故要因		搬送者数（人）
1	居室	14,524	1	道路	12,593
2	階段	3,185	2	階段	2,077
3	廊下	1,712	3	段差	1,294
4	玄関	1,645	4	店内	995
5	ベッド	1,333	5	エスカレーター	808
6	椅子	1,030	6	ホーム	456
7	トイレ	1,021	7	自転車	418

「出典：東京消防庁」

東京消防庁「救急搬送データ」を基に消費者庁で作成（一部改変）